



# 貨物総行動を展開

一月一三日、JR貨物本社前などにおいて、冬季一時金三・五ヶ月の支給や賃金制度改悪阻止等を訴えた貨物総行動が行われた。

一時本社前には約二〇〇人が、関東ブロックを中心に全国から結集した。本部・高橋委員長からは一〇四七名解雇撤回、和解問題やJR貨物の安全・安定輸送への訴えが行われた。東日本本部・松井副委員長からは、JR東日本会社との全面和解以降

「友愛と信義」を基調とした東京鉄道関連労は、第三〇回定期総会を一月一六日、地本会議室で開催し、関連労働者の労働条件改善や権利確立、生活向上など諸要求実現に向けた活動方針を全体で確立した。併せて、今総会は、先に開催した中央鉄道関連労第三五回定期総会において確認された、今後の鉄道関連労の組織体制の強化と再建、財政の建て直し等を図っていくために「東京鉄道関連労組合の合意に基づき、当面の間「組織凍結」をし、中央に一体化した組



組合員の購読料は組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1  
国鉄労組東京地方本部  
発行責任者 石上浩一  
編集責任者 常盤達雄

No. 1693 定価 15円

2007年  
12月5日

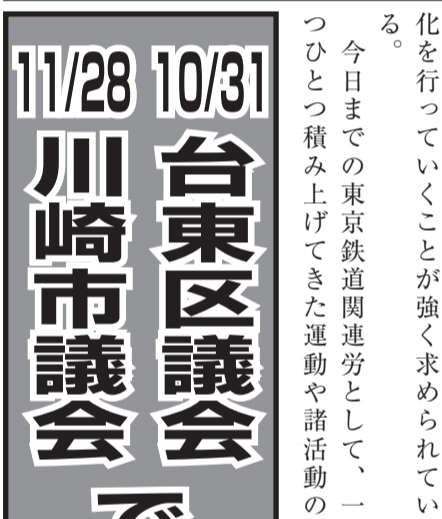
## 国労加入を 大胆に訴えよう

物の構造的な問題は変わっていない事などが訴えられた。関東貨物協議長・斉藤さんからは、年休はおろか特休すら消化できない職場があるほど人員が不足している事などが話された。その後、東京・水戸・長野・千葉・高崎・新潟から決意表明を受け、最後に闘争団から一・三〇集会への結集の呼びかけがあり、シユプレヒコール・団結がんばろうで終了。

## 東京鉄関労II 発展的に解消

### 第三〇回東京鉄関労定期総会開催

「友愛と信義」を基調とした東京鉄道関連労は、第三〇回定期総会を一月一六日、地本会議室で開催し、関連労働者の労働条件改善や権利確立、生活向上など諸要求実現に向けた活動方針を全体で確立した。併せて、今総会は、先に開催した中央鉄道関連労第三五回定期総会において確認された、今後の鉄道関連労の組織体制の強化と再建、財政の建て直し等を図っていくために「東京鉄道関連労組合の合意に基づき、当面の間「組織凍結」をし、中央に一体化した組



### 11/28 川崎市議会 10/31 台東区議会 で JR不採用問題の 早期解決を求める 意見書採択

織運営を進めていく」という決定事項を改めて確認し合うことであった。

今後は、組織拡大をはじめとした諸活動の展開と「友愛と信義」の相互連帯を基本に、社会的・経済的地位のより一層の向上を目指していくために、「学習と交流」を軸にした、あらゆる取り組みの強化を行っていくことが強く求められている。

今日までの東京鉄道関連労として、一つひとつ積み上げてきた運動や諸活動の

前日の台風が空を一掃したかのように、一〇月二八日(日)東京地本家族会のレクリエーションは澄みきった秋晴れの中で行われました。

流石です！参加された会員、皆さんの普段の心がけの良さが反映され気持ちのいい一日でした。全員で記念写真をとりました。

会長の挨拶の後、屋敷の乾杯で始まり、お茶・ジュース等を手に地本・宮崎組織部長の乾杯で始まり、焼きそば・チャーターハン等を時間内に食べられるだけ食べ、飲むだけ飲み、ワイワイ・ガヤガヤと短い時間でしたが、心もほっか・ほっかに暖まり、楽しいひと時を過ごしました。

宮崎組織部長には家族と参加していただきました。終始、穏やかに組織強化にむけてお互い「協力し合う」話し合いで盛り上がり、親睦を深め、役員・会員の立場を理解し合い、より強力な信頼のもと、国労運動の発展を参加者全員で確認しました。

組合員の皆さん！家族に国労運動の重要性を理解させる手取り早い手法は、家族会活動に率先して参加させることです！これからも共に邁進していきましょう。

(家族会副会長・小林恵美子)

### 家族会

レクリエーション  
アルコール・お茶・ジュース等を手に地本・宮崎組織部長の乾杯で始まり、焼きそば・チャーターハン等を時間内に食べられるだけ食べ、飲むだけ飲み、ワイワイ・ガヤガヤと短い時間でしたが、心もほっか・ほっかに暖まり、楽しいひと時を過ごしました。

### 神奈川が準優勝

5kmは高橋さん四位  
東日本マラソン

一月一〇日、昨年と同じドシャ降りの雨に祟られながらも、東日本本部主催第一二回マラソン大会が、皇居外周コースで開催された。

開会式では、東日本本部・伊藤委員長が、今年も東京地本の阿部・前委員長の



時を過ごしました。宮崎組織部長には家族と参加していただきました。終始、穏やかに組織強化にむけてお互い「協力し合う」話し合いで盛り上がり、親睦を深め、役員・会員の立場を理解し合い、より強力な信頼のもと、国労運動の発展を参加者全員で確認しました。



準優勝した神奈川チーム

# 新橋支部 大会報告

一月八日、大井町「きゅりあん」で第七二回新橋支部大会が開催された。

大会では、二〇名の代議員が発言し、  
①安全・安定輸送の問題について「規制緩和とJRの利益第一体質が連続する輸送障害の背景であり、利用者や地域を巻き込んだ取り組みが重要だ」「他の作業との抱合せでの検査を指示されたが、安全確保ができない」と追及し見送らせている」「ペビーカーがドアに挟まる事故で、直ちに調査し集会で話し合い安全対策の申し入れを行っている」など職場から点検報告の取り組みの報告が相次いだ。



加入へのピラを作成し訴え、組合員全体の取り組みとなり意識が高まった。組織拡大も報告され、運転区で青年が加入したことは、国労の運動の正しさと、取り組みが成果に結びつくことに確信が得られた。③労働条件改善・要員確保について「国労は少数でも、繰り返し仲間と話し合い申し入れをして作業ダイヤを変えさせた」「三六協定を巡り東労組は現場の組合員と矛盾」「年休が入らず、超勤前提の作業など要員不足も明らか。機関が一体となって粘り強い取り組みを求めよう」「契約社員の三割が既に退職。労働条件改善と正社員化への取り組み」との訴えもあった。④採用差別事件の早期解決にむけ一・三〇集会の成功に向けた決意も報告された。憲法改悪阻止の取り組みも奮闘すべきとの発言もあった。

# 大宮地区本部 大会報告

大宮地区本部は、一月一〇日土曜日さいたま市浦和コミュニティセンターで第八回定期大会を開催した。

今年にはNF二〇〇八における「今後の駅のあり方」や、大宮支社管内で立て続けに発生した「川越線踏切事故に於ける救援列車脱線事故」、大宮駅構内での「架線断線事故」などの事故時に見られた職場の技術力の低下の問題など、課題が山積する大会となり、討論も熱気のあるものになった。

冒頭挨拶に立った地区本部の荻澤委員長は「地区本部の運動体化がスタートして一年が経過したが、それぞれの課題に今立ち



飯田新委員長

向かっている」と述べ各分野での変化などを報告した。  
大会には東京地本石上委員長も参加、委員長として初めて「誰からも信頼される国労になろう」などの挨拶と報告を行った。  
大会は、運動方針、予算案などを満場一致で採択しながら、役員改選では地区本部設立時から準備などで奔走、その後委員長を担うことになった荻澤委員長が退任し、新委員長に飯田誠氏（大宮信通技術センター）を選出したほか、執行体制なども強化しながら、向こう一年間の闘う体制を確立した。

# 上野支部 大会報告

年は、職場の団結と運動を進めてきた歴史。年史を学び今後の運動に生かしたい」と挨拶し、矢頭会長（新橋退職者の会）が「昭和二十一年支部結成に参加し今日まで活動してきた。喜びと共に今後を期待する」と乾杯の音頭を發し、最後に参加者全員で「国鉄労働歌」を合唱し闘う決意を固めあった。  
新橋支部六〇年史は三〇〇冊限定で作成。希望する方は新橋支部に連絡を。



上野支部は一月二七日、岸町ふれあい館で第一二一回定期大会を開催した。

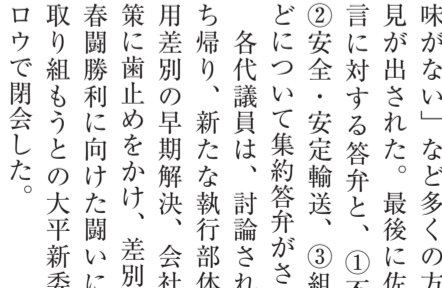
上野支部は一月二七日、岸町ふれあい館で第一二一回定期大会を開催した。  
一〇四七名の不採用事件早期解決を目指し、政府に働きかけと世論喚起を高める上で重要な自治体決議を勝ち取るために上野支部管内にある自治体に地本の支援、地区協との連携を図り要請行動を強め、台東区・荒川区・足立区・葛飾区・柏市で具体的な取り組みを展開しながら大会を迎えた。  
議長に武田代議員（松戸駅）、副議長に金子代議員（東京土技セ）を選出後、玉之内委員長は「自治体決議採択に向けて取り組み、支部・地区協・分会が一体となり勝ち取った。組織拡大でも、和解勧告を受け入れ、配属、入所行動を展開するなかで新採を迎え入れた。運転職場でも加入してきている。支部・地区協・分会が協力しあって取り組んでいきたい」とあいさつを述べた。  
上部機関から石上地本委員長が出席し「JR会社としっかり向き合い、健全な労使関係の確立と安全・安定・安心と信頼の鉄道輸送の確立、労働条件と職場環境の改善に向けて仕事総点検、安全総点検運動を展開して行きたい」とあいさつを受けた。  
討論では、組織強化拡大への日常的な取り組み、分会ニュースの発行や職場集會開催な

# 中央支部 大会報告

ど分会活動の活性化に向けた活動、春闘時における労働条件の改善を求めての申し入れ、三六協定に対する東労組の職場での行動、「駅のありかた」に伴う問題点、一〇四七名の不採用事件の早期解決に向けた一・三〇集会の決意等で一五名の代議員から発言があった。  
役員改選では委員長と副委員長で選挙が行われたが、執行委員長に玉之内明徳氏を選出した。

中央支部第二二回定期大会が一月一〇日、渋谷勤労福祉会館で開催された。  
大谷委員長の「一〇四七名の解雇撤回闘争は、大衆的な闘いが重要であり、納得できる解決水準のためにも大衆闘争を背景にし、全党が解決に理解を示さなければ解決しない。一・三〇大集会は全員参加で臨もう」との挨拶に続き、西部全労協、世田谷地区労、新宿区労連、社民党、共産党、国労闘争団、上部機関である東京地本山副委員長の来賓挨拶を受けた。

代議員からは「包括和解後、差別はなくなくなりつつあるが、試験の合格者は極少数で、依然として差別が続いており、受験をあきらめた組合員も出ています」「新たな雇用制度は、JR東日本、清算事業本部、システム会社、鉄道総研等々で雇用条件は違いますが、低賃金で労働内容は変わらず、という実態であり、関連子会社へ早期退職していく人も出ています。また、新たな差別の危惧も出されている。国労として監視体制を求めたい」「相変わらずの要員不足で、関連会社からの出向受け入れや監督委託業務を行なっているが、解消されない」「等々、人減らし合理化による労働強化と安全が危機にさらされていることが報告された。



大井工場支部第八回定期代議員大会が、一月一〇日に東京総合車両センターで開催された。議長団に小島代議員と高橋代議員を選出し、議論が進められた。

# 大井工場支部 大会報告



大井工場支部第八回定期代議員大会が、一月一〇日に東京総合車両センターで開催された。議長団に小島代議員と高橋代議員を選出し、議論が進められた。

国鉄闘争では、確認された「四者四団体」の枠組みを更に発展させ、解雇撤回に向け一・三〇全国集會を全員参加で成功させよう」と決意しあい、執行委員長に大谷一敏氏（東工所）を選出した。

各代議員は、討論された内容を分会に持ち帰り、新たな執行部体制と共に、JR採用差別の早期解決、会社の無謀な合理化施策に歯止めをかけ、差別の根絶、組織拡大、春闘勝利に向けた闘いに国労組合員全員で取り組もうとの大平新委員長の団結ガンバロウで閉会した。